

水性ワイピング原液購入仕様書

銀行券部

1 適用範囲

本仕様書で規定する水性ワイピング原液とは、当法人の印刷機にて使用するためのものである。

2 製品種別

界面活性剤の分類：ノニオン界面活性剤（ポリオキシエチレンラウリルエーテル）

3 水性ワイピング原液の種類・主成分等

水性ワイピング原液の種類については、下表に示す水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液の2種類とし、当法人では、重量比1：1で混合して使用することを基本としているため（液調整等で重量比を変更する場合もある）、水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液は、同一製造業者のものとする。

(1) 主要原材料：天然ラウリルアルコール

(2) 構造、成分、項目、規格：以下の表のとおりとする。

項目	水性ワイピング原液の種類		備考
	水性ワイピングA原液	水性ワイピングB原液	
構造・成分	RO (C ₂ H ₄ O) nH		R=C ₁₂ H ₂₅ ~C ₁₄ H ₂₉ (但し、C ₁₂ ・75%以上)
	n=9	n=12	
外観	無色透明又は白色の液状	白色のペースト状又は固体	25℃における状態を目視する。
HLB	13.4±0.3	14.6±0.3	
曇点(℃)	76~85	>100	5% a q
	44~54	54~64	5% a q + 炭酸ソーダ 4.5%水溶液
比重	0.96~1.01	1.00~1.03	JIS K 0061 (40℃) に準ずる。
pH	5.0~7.0	6.0~8.0	JIS Z 8802 (2.5%aq) に準ずる。
水分(%)	0~0.3	0~0.2	JIS K 0068 (カルフィッシャー法) に準ずる。
水酸基価 mg KOH/g	92~98	76~80	JIS K 0070 に準ずる。
色調	0~100	0~100	JIS K 0071 (APHA) に準ずる。

4 水性ワイピング原液の輸送及び納入場所

水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液は、契約相手方の責任において当法人が指定する時期及び指定する場所まで別紙1のとおり納入することとする。ただし、各工場担当者から、納入数量及び時期の変更を指示する場合がある。

5 納入方法

- (1) 納入時の充填容器は、水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液とも18リットル石油缶とする。
- (2) 充填容器には次の項目を表示することとし、水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液の区分けを明確に行うこととし、使用する表示用ラベルについては、水性ワイピングA原液は青色用紙に黒色文字とし、水性ワイピングB原液は橙色用紙に黒文字とする。

イ 製品名

ロ 数量

ハ 製造年月日

ニ ロット番号

ホ 社名

- (3) 納入毎に、契約相手方又は製造業者の品質保証書を提出することとする。

6 受入検査

納入毎に、納入工場の検査職員による数量、契約相手方又は製造業者の品質保証書等の内容、充填容器の形状、充填容器からの液漏れ等について、受入検査を実施することとする。

7 その他

- (1) 水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液の各々について、以下の書類を本局財務部契約課原材料契約係まで提出することとする。

なお、各書類の受領期限は、開札日の10営業日前までとする。

イ 当該製品の製品名、MSDS（製品安全データシート）及び製造業者が明らかになる書類

ロ 当該製品の組成等の分析に関する書類

（試験方法及び組成等分析表は、別紙2及び別紙3を参照のこと）

ハ 第三者機関（分析専門機関）による分析結果報告書

- (2) 受入については、当法人の受入検査に合格した後とするが、受入後の製品品質にバラツキ又はトラブルが生じた場合は、当法人と協議の上、速やか且つ適切な措置を講じることとする。
- (3) 本仕様書に疑義が生じたときは、当法人と契約相手方が協議して決定するものとする。

試 験 方 法

水性ワイピングA原液及び水性ワイピングB原液について、以下の試験方法で各項目の試験を実施するものとする。

1 外 観

試料をビーカーに採り、25℃に加熱し脱泡した後観察する。

2 比 重 (JIS K 0061に準ずる浮きばかり法)

〔測定法〕

試料を500mlメスシリンダーに採り、40℃に保った恒温水槽中で試料が一定の温度になってから浮きばかりを用いて比重を測定する。

3 pH

〔測定法〕

原液2.5%液(試料2.5gを蒸留水に溶解し100g定容とする)を、JIS Z 8802に準じ、ガラス電極法により測定する。

4 曇 点

〔測定法〕

(5%水溶液)

原液5%(試料5gを蒸留水に溶解し、100g定容とする)を試験管に採り、予測される曇点以上に加熱した温水に浸す。液が白濁したら温度計で攪拌しながら自然冷却し、液が元の透明な状態になった時の温度を曇点とする。測定は3回行い、平均値をとる。

(5%+炭酸ソーダ4.5%水溶液)

原液5%・炭酸ソーダ4.5%液(試料5g、炭酸ソーダ4.5gを蒸留水に溶解し、100g定容とする)を試験管に採り、予測される曇点以上に加熱した温水に浸す。液が白濁したら温度計で攪拌しながら自然冷却し、液が元の透明な状態になった時の温度を曇点とする。測定は3回行い、平均値をとる。

5 水酸化

JIS K 0070に準じ、中和適定法より測定する。測定は3回行い、平均値をとる。

組 成 等 分 析 表

1 商 品 名 :

2 組 成 及 び 性 状

項 目		性 状
組 成		
化 学 構 造		
性	外 観 (25°C)	
	有 効 成 分 (%)	
	H L B	
	曇 点	原 液 5%水溶液
状	(°C)	原液 5% + 炭酸ソ ーダ 4.5%水溶液
	比 重	
	p H (2.5%溶液)	
	水 分 (%)	
	水 酸 基 価 (mgKOH/g)	

3 関 連 法 規

既 存 化 学 物 質	
消 防 法	
P R T R 法	

4 安 全 性

急 性 毒 性	
そ の 他	